第15号

健心

題字：山田無涯 書

平成24年5月15日発行
発行所
高岡市石瀬6-1 塩谷建設㈱内
高岡市柔道連盟
TEL 23-4658
FAX 28-2755
編集発行
広報部

小竹会長

集合写真

懇親会風景

総会風景

昇段者

「ご挨拶」

高岡市柔道連盟
会長 小竹一良

新しい年度が始まりました。会員の皆様方には、日頃から高岡市柔道連盟に、御支援と御協力を賜り有難うございます。

昨年は、三月十一日に発生した東日本大震災が史上経験のない大災害をもたらしました。今も、日本は復興に向けて動いております。日本人が誇る絆の力を信じ、そして日本の未来に向け、確かな希望を感じております。

さて、去る三月二十日に高岡市柔道連盟の定期総会が開催されました。本年は、役員改選の年でございましたが、総会に於いて引き続き会長に選任いただきましたことをご報告申し上げます。私自身、なお一層の責任の重さに身の引き締まる思いを感じております。任期二年でありますが、本市柔道の普及、発展に誠心誠意努めてまいりますので会員の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。市柔連の発展に会員二百余名全員で頑張りましょう。

「特集　高岡工芸高等学校」

会計部長
小滝　由剛

私は中学時、友人に誘われ柔道を始めました。顧問の細川賢照先生と外部講師の東　伸先生の熱心な指導と強い仲間に恵まれたおかげで、県でも一、二位を争えるほどになれました。しかし全国大会には出場できなかったという悔いが心の中に残っていました。そんな時、小杉中学時代に二度の全国制覇をされた原孝典先生が伝統ある工芸高校の監督をされており、その誘いを受け工芸高校に進学しました。インターハイを目指し学校での部活動はもちろん、朝に夜にトレーニング、練習試合、合宿、遠征と盆と正月しか休みがないくらいに厳しい練習をしたことが思い出されます。残念ながら団体でインターハイに出場することは出来ませんでしたが、同級生十七名誰一人やめることなくお互いに切磋琢磨しながら三年間柔道を続けることができたことが誇りです。大学へ進学させていただき、今は家業をしながらではありますが、母校工芸高校柔道部のスポーツエキスパートとして、インターハイ出場を目指し磯辺哲部長（工芸ＯＢ）と梶谷正道監督とともに選手強化に携わらさせていただいてます。

結びになりましたが、今の私があるのは、柔道を通じて素晴らしい先生や先輩、友達にめぐりあう事ができたからと確信しています。ありがとうございました。

高岡地区部長
磯辺　哲

『工芸柔道部、思い出』

先生：「悔しいか？」、部員：「はい」、先生：「それでいい、忘れるな」、部員：「はい」

先生は石黒昇先生、部員は私です。先生からいただいた忘れられない一言です。

私が工芸柔道部の門を叩いたのは、今から三十四年前の昭和五十三年四月でした。今から考えると高校に入学するまで柔道の経験がなかったので自ら進んで入部するわけもなく、身体が大きかったので先輩に柔道場に強制連行？拉致？されたのが始まりです。先生は、今から考えると褒めて生徒を伸ばしていかれるのを信条とされていたのかもしれません。それに対して先輩やＯＢの方々の指導の厳しかったことを記憶しています。ただ、大した戦績も残せませんでしたが、それなりに柔道に取り組める様になったのは怖い先輩方に稽古をつけていただいたおかげだと感謝しています。今回もこの原稿をそのとても怖い先輩だった広報委員の方から依頼され書いています。今こうやって母校の教壇に立たせてもらい、同じ道場で指導ができるのは、工芸柔道部で過ごした三年間のおかげだと思っています。石黒先生、先輩方ありがとうございました。

副理事長
細呂木　孝

昭和四十四年、志貴野中学校の岩瀬幸男先輩をたよって、高岡工芸高校柔道部に入部。以来、柔道中心の生活が始まる。

一年生の時、毎日道場の掃除、柔道衣の洗濯など忙しく、先輩方も大変強く、どうなるかと思いつつ、初めて高岡市民大会で、高岡工芸のネームの入った試合衣を着た時、名前の重みに感無量のものを感じた。

日米親善大会、国民体育大会、高校総体等出場したが、一番の思い出は、沖縄での全国高校選抜大会である。団長（故）小谷平作八段、監督江嵐賢治先生、選手として先輩の木倉正明、桜野昭雄、金井鉄雄（旧林）同期の小川春植、寺坪元和（旧石田）北条務でチームを組む。準々決勝で広島　崇徳高校に惜敗したものの、その時の南喜陽選手（軽量級世界選手権二連覇）が重量級の選手を投げる背負投げには驚いた。

忘れてはならないもう一つの思い出として、練習後、恩師の江嵐賢治先生が、いつも栄養満点の鍋を作っていただき皆で美味しくいただいたおかげで頑丈な体を養った。また、先生の自宅へもよく行き、奥様の手料理をよくごちそうになった事を思い出す。（あの時のビーフステーキの旨かったことは今でも忘れられない）今思えば、柔道を通じて良き師、良き先輩、良き同輩との出会いに感謝したい。

常任相談役
藤田　利雄

昭和二十年八月十五日、不幸な戦争は日本が敗れ、アメリカの占領支配下となり、すべてのものが制圧され苦難の日々が続いた。衣食住、特に食は厳しく、野の草、木々の葉、タニシ、イナゴにいたるまで食べて命を繋いできた。然し敗戦ではあるが平和な時代となり生命の危機から解放された人々にとって新しい再生日本のスタートが始まったのである。日本国民の武士道は外国人には最も危険思想とされ、柔道も禁止されてしまった。昭和二十七年日本武道、特に柔道は講道館の創始者、嘉納治五郎師範の柔術から柔道への人間形成への精神と理論「精力善用」「自他共栄」の理念がアメリカや世界の人々に理解され、日本の再興と民族再生発展に最も大切であると認められ柔道が解禁され学校柔道も認められた。高岡市では、各道場で稽古が続けられ、小谷平作（八段）島田孝（七段）藤井俊一（七段）勝山精一（八段）大井正利（七段）の諸先生が高岡市柔道の隆盛を築かれてきました。富山県の各大会並びに東西対抗戦が、富山、高岡交替で行われた。中学、高校、大学、一般の団体戦で市民会館の特別舞台道場であった。昭和二十七年四月、高岡工芸高校一年生にて、柔道を志し、柔道同好会に入部

した。その当時五名の先輩が家庭用の畳十枚程度の道場で稽古していた。一年生は小生を含め十名であった。旧体育館の片隅での稽古は息が上がらなかった。高岡警察署や高岡高校の道場にお願いしてのジプシー生であった。昭和二十七年、新講堂兼体育館が新設された。この機会にどうしても柔道同好会としては広い道場が欲しかった。一年生～三年生の同好生は三十名近くになっていて、話し合った。一人五百円の小遣いを集め畳を買うこととした。十日後に二十枚の新しい畳が運び込まれた。古い畳とあわせて三十枚になった。皆感激し、もえたぎった。三日後に私と部員が呼び出された。体育部長、生徒指導の教官が厳しい顔であった。「君たちはどうして畳を買ったのか？」ということである。「柔道の稽古のために全員の合意でやったことがどうして」と校長に詰め寄った。学校長は「君らの意は解るが、学校の立場もある」と言われ、五百円は皆に返され、学校が負担してくれた。その上新しい畳が増え、四十畳の大道場となり柔道部として認められ、高岡工芸高校柔道部の誕生となった。柔道部設立以来五十三年の年月が過ぎた。卒業後社会人として高岡工芸柔道部OBとして各分野で活躍している。また後輩達も一般、社会人、高校生として高工柔道部は健闘している。小生も昭和二十七年五位中学校で柔道を始め平成二十四年まで六十年間、柔道着（高岡工芸柔道部OB会贈呈）を着て、四月二十八日の全国高段者柔道大会に出場出来ることを喜びとし高岡工芸柔道部のおかげと感謝している。

＊コラム＊

龍谷高校全国制覇 祝賀会の光景

相談役　菅池英二

「このような優れた選手の原点は、幼いころから積み上げてきた、続けてきたおかげです。健心会をはじめ各地域の柔道クラブで子供たちを育てていただいたおかげです。」

高岡龍谷高校女子柔道部員が、平成二十三年八月、全国高等学校総合体育大会柔道競技大会優勝・全国制覇した祝賀会（九月・商工ビル）の時、岩城裕之監督の挨拶・戦跡報告につづいての高木俊作コーチ（さくら柔道塾塾長）の挨拶です。

撮　佐野賀世子

端的に、そして、気負うことなく、淡々と語る高木さん、横でうなずく岩城さん。実にすばらしい光景でした。

監督として、内外の重圧に耐え、選手の気質、技を知り尽くし、一挙一道に気を配る岩城さん。

柔道に人生を懸けてきた、懸けていると言ってもいいお二人が、自らの苦労を語ることなく、「選手たちは地域で育てられた」と語り、それを認め合う、実に美しい光景でした。

「この二人だからこそ団体戦で全国制覇という成果が生まれたのだ」と、私はその時胸打たれる思いをしたことを今も思い出します。

選手紹介の時の彼女たち（三年上田莉那・佐野賀世子・浜本舞実・二年長内香月・小松那奈・一年上野扇京）のちょっと恥ずかしげで誇らしげで晴れやかいっぱいの笑顔も思い浮かびます。

そして、佐野賀世子選手（団体五戦五勝・個人戦六十三kg級優勝・四月山梨学院大学進学）のお母さんの嬉しさ控えめに会場を挨拶に回られた姿も祝賀会に花を添えた感じでした。

四月一日㈪県立高岡武道館　芳野中学校・龍谷高校柔道部合同練習会に出向く。両校は土・日曜に武道館で合同練習。この日は、男女部員二十六人参加。

八時三〇分、挨拶に始まり。十二時挨拶で終わる。その間、小休止はあったが、大休止はなし。

指導者は、芳野中　竹嶋和裕（顧問）・西田誠（同）、清水国夫（県委嘱スポーツエキスパート）・高木俊作（同）、龍谷高　岩城（監督）、高木（コーチ）の先生たち。

練習のメニューは先生方から時折でるが、号令、掛け声は両校のキャプテン、部員同士で。トレーニングを主に、打ち込み、寝技はあったが、乱取なし。先生方からは、時折「声が小さい」「気を抜くな」と厳しい檄も飛びましたが、巡回しながら個々にささやくように形を示しながら指導。終わりに近づいた頃、先生の指導で休む部員二人いたが、全体として緊張感みなぎり息を抜くこと無しの三時間余りでした。

久々に、若いエネルギー溢れる姿に接し、高校生は中学生にぶざまな姿は見せられない、中学生は高校生に近づきたい、そんな両方とも我慢いっぱいのがんばりだったのかなとも感じ、私自身エネルギーを貰った機会でした。

本稿は三月の市柔道連盟総会の時、中川佳親　広報部長、柴田成人　前広報部長・現監事のお二人から要請を受け、この一年間に最も印象に残っていた龍谷高校祝賀会のこと、そして、芳野中学校・龍谷高校の練習振りを記しました（実は、芳野中学校は、私が昭和五十年から四年間勤めていたので懐かしい思いで訪ねました）。

平成24年1月9日

正気館大会

平成24年1月4日

武道稽古始め

平成24年4月8日

春季柔道錬成大会（幼児から六年生）
前列優勝者、後列次勝者

平成24年4月4日

健心開始式

編集後記

今年、インターハイ（高校総体）が射水市で開催されます。過去に富山で二度開催されました。地元開催で一度目の昭和四十二年には砺波高校が準優勝し、二度目の平成六年には小杉高校が三位に入賞しました。三度目の今年も、昨年同様に当連盟所属の高校生が頑張ってくれるものと思います。

広報部では試合結果をメールで配信します。この機会にアドレスを登録してみんなで応援しましょう。

広報部長　中川　佳親

告知板

月・日	行事	場所
5月20日(日)	第四十四回富山県段別柔道大会	県営高岡武道館
5月26日(土)	第七回市民体育大会中学の部	県営高岡武道館
6月16日(土)	第七回市民体育大会総合開会式	高岡市民体育館
6月24日(日)	第七回市民体育大会児童・一般の部	県営高岡武道館
7月1日(日)	第四十三回富山県柔道体重別大会 第六十五回富山県民体育大会	県営高岡武道館
7月28日(土)	第六十五回富山県民体育大会中学の部	県営高岡武道館
7月29日(日)	第六十五回富山県民体育大会児童・一般の部（C級ライセンス試験）	県営高岡武道館
9月22日(土)	第二十七回高岡市スポーツ少年団秋季錬成大会	塩谷建設正気館
12月9日(日)	第二十四回若獅子青少年柔道大会	県営高岡武道館
1月4日(金)	高岡市新春武道稽古始め 役員新年顔合わせ	県営高岡武道館 ニューオータニ高岡
1月19日(土) 26日(土)	土曜っ子スポーツチャレンジ 9時～11時	県営高岡武道館
3月未定	平成二十四年定時総会	商工レストラン
通年	健心会練習　毎週月曜日・水曜日 午後7時～9時	県営高岡武道館

■高岡市
柔道連盟の携帯サイト
http://takajuren.jugem.jp

■高岡市柔道連盟公式サイト
http://高岡市柔道連盟.jp/
またはhttp://judo.boy.jp/

■専用アドレス
takajuren@judo55.com

がんばった子供達

■平成23年度主な競技大会成績

〔スポーツ少年団〕

☆第８回全国小学生学年別柔道大会富山県大会

６年生男子50kg超級　優勝　円城　初樹（戸出スポ少）
６年生男子50kg級　準優勝　駒沢　玲峰（さくら柔道）
５年生女子40kg級　準優勝　島　さくら（中田スポ少）
５年生女子40kg超級　優勝　大屋　りん（西条スポ少）

☆第20回全国日整少年柔道大会

６年生の部　優勝　円城　初樹（戸出スポ少）
準優勝　クルダーカリム（西条スポ少）

☆第21回富山県スポーツ少年団競技別交流大会

団体戦　準優勝　高武館Ａチーム
個人戦　６年生の部　優勝　円城　初樹（戸出スポ少）

☆23年度県民体育大会

児童の部　優勝　高岡市Ａチーム

〔中学校〕

☆第49回富山県中学校柔道選手権大会

男子個人優勝
66kg級　阿部　大輝（志貴野）
女子個人優勝
52kg級　中川佳菜恵（志貴野）
57kg級　小松　史歩（芳野）
63kg級　藤井古都里（芳野）
70kg超級　松井　絵名（高西）

☆第33回県中学校選抜柔道大会

男子個人戦優勝
66kg級　村上　敦哉（芳野）
女子個人優勝
44kg級　二谷　樹（高岡西部）
48kg級　永井向日葵（高岡西部）
70kg超級　松井　絵名（高岡西部）

〔高　校〕

☆第60回富山県高等学校春季柔道選手権大会

女子団体優勝　高岡龍谷高等学校（19年ぶり４回目）
女子個人優勝
48kg級　上田　莉那（高岡龍谷高）
52kg級　上野　扇京（高岡龍谷高）
63kg級　佐野賀世子（高岡龍谷高）
70kg級　長内　香月（高岡龍谷高）
78kg級　濵本　舞実（高岡龍谷高）

☆第60回富山県高等学校総合体育大会　柔道競技

女子団体優勝　高岡龍谷高等学校（２年連続８回目）
男子個人優勝
60kg級　上野　耀大（高岡龍谷高）
女子個人優勝
48kg級　上田　莉那（高岡龍谷高）
52kg級　上野　扇京（高岡龍谷高）
63kg級　佐野賀世子（高岡龍谷高）
70kg級　長内　香月（高岡龍谷高）
78kg級　濵本　舞実（高岡龍谷高）

☆第51回北信越高等学校柔道大会

女子団体優勝　高岡龍谷高等学校
女子個人優勝
63kg級　佐野賀世子（高岡龍谷高）
70kg級　長内　香月（高岡龍谷高）
78kg級　濵本　舞実（高岡龍谷高）

☆第60回全国高等学校柔道大会

女子団体優勝　高岡龍谷高校
女子個人優勝
63kg級　佐野賀世子（高岡龍谷高）

☆第57回富山県高等学校新人柔道選手権大会

女子団体優勝　高岡龍谷高等学校（２年連続８回目）
男子個人優勝
60kg級　上野　耀大（高岡龍谷高）
66kg級　岩城　雄敬（高岡龍谷高）
81kg級　向翔　一郎（ 高岡第一高）
女子個人優勝
52kg級　上野　扇京（高岡龍谷高）
70kg級　長内　香月（高岡龍谷高）

☆第34回全国高等学校柔道選手権富山県大会

女子団体優勝　高岡龍谷高校（２連覇）

☆平成24年　富山県女子柔道選手権大会

優勝　佐野賀世子（高岡龍谷高）